Shanti 通信（No.39）

By CHIKAKO KONDOU

同じ価値観を持つ人だとお互いに思って結婚したのに、妻が霊性修行に目覚めて暴走し出した。止めることもできず戸惑う夫。我慢できるか、離婚すべきか？幸せが外側にあると信じて苦悩しながらさまよい歩き、数々の体験を経てやっと内側の平安に辿り着いた私の奮闘記です。この経験がどなたかのお役に立てれば、幸いです。

ヨガと出会う

１９８９年、結婚し新居の近くにあったシャンティヨガクラブに「美容と健康のために」という気持ちで入会しました。初めてのサットサンガで、ヨガの8ステップを習い、もっと知りたいと興味を持ちました。マキ先生のキラキラとしたエネルギーに惹きつけられ、私もそうなりたいとインストラクターを目指すことにしました。
日々の生活の合間に行うヨガのアーサナや呼吸法、瞑想は、気分をリフレッシュしてくれ、今まで味わったことのない爽快感を味わえました。

初めての出産

１９９１年、マキ先生のアドバイスで、自然分娩をしている助産院を選びました。出産直前までアーサナと呼吸法を毎日行い、３１時間にわたるお産でしたが、無事に自然分娩ができました。「ヨガをやっていたから帝王切開をせずにすんだのよ。」と助産師さんに言われ、とても嬉しかった。満月の満潮時に人が生まれることにも感動しました。しかし、陣痛に耐える姿をそばで見ていた夫は、「普通の病院なら苦しまないですんだのに。」と、不可解そうでした。

夫の家族と同居

長女が3歳になる頃、大正生まれの姑を筆頭に、長男～五男（我が夫）までの5所帯が集結するマンションに引越すことになり、私にとっては、まさにマハーバーラタでのクルクシェートラの戦いが始りました。
古い体質の家族に戸惑う私。どちらの味方にもなれず、立場の弱い夫。二人の関係はギクシャクし始めました。

救いを求めて

精神的な支えをヨガに求めて、私はますます熱心になっていきました。そして、初めてシヴァナンダ・アシュラムへのツアーに参加したのもその頃でした。１９９６年３月のことでしたが、私はこのままずっとここにいたいなぁと思いました。アシュラムで体験したキールタンは、私の気持ちを穏やかにしてくれました。
しかし、まだ小さかった娘を置いてインドに行った嫁は、姑や長男夫婦からいじめの対象となり、夫も庇ってくれず、私は孤立し暗くなる一方でした。
当時はオウム事件もあり、「あなたは、本当に大丈夫なの？」と、親戚から問い詰められたこともありました。
その頃の私は、自分だけが辛く、夫の気持ちが解らない状態でした。
転職したばかりの夫は、会社に馴染むことができず苦しかったそうですが、私に話すこともできず、ただ不機嫌になっていきました。だいぶ経ってからその頃の気持ちを話してくれました。

更にさまよう私

ここから逃げ出したいという思いが強くなっていった私はヒーリングの世界に興味を持ち、西洋霊気、直傳霊気を学びました。また、アーユルヴェーダ専門家コースに入会し、インドのマイソールにパンチャカルマ・浄化療法を受けに行きました。更に、整体の学校に行き、心理学も勉強しました。外側の世界に魔法の杖を求めて、随分多

くの時間とお金をそれらに費やしましたが、外側に求めれば求めるほど、深みにはまっていき、その時は遠回りをしていることに全く気づくことができませんでした。耳に心地よいことを言ってくれるところや使いどころのないライセンスを与えてくれるところ、それらは救いのように見せかけるビジネスであることが、弱っている私には見抜けませんでした。さまよい歩き回れば回るほど、健康な人であれば見向きもしない世界に依存的になり、自分を見失っていきました。もう、どうにでもなれ！という投げやりな気持ちで、サイババのバジャンにも通い始め、インドのアシュラムにも行きました。そんな私ですから、サイババのアシュラムでは良い思い出がありません。食堂で英語が解らない私は顎で指示をされた時に、感傷的にひどく悲しくなりました。シヴァナンダ・アシュラムがとても懐かしくなり、「私には、ここは違う。」と、その時に思いました。

サットサンガ

その頃、度々シヴァナンダ・アシュラムからスワミジ方が来日され、そのたびにサットサンガが開かれていました。幸運なことに、私はスワミジ方に間近で接する良い機会がありました。

✨チダナンダ師✨

１９９５年来日の際、マキ先生の計らいで通訳の方のお宅にお手伝いに入りました。
忘れられないのが、正座でチャイを飲むお姿です。スーッと伸びた背筋、ゆったりとした手の動き、とても優雅で美しかったです。内なる平和が周囲にも広がり静かでした。歩く時も、足音もなく空中に浮いているかのようでした。とても嬉しかったのが、私が「シャンティヨガクラブの者です。」と、挨拶すると「オー！シャンティ！シャンティー！マキー！マキー！」と、満面の笑みで祝福してくださったのです。マキ先生の下でヨガを学んでいることを、誇りに思いました。

✨ヴィマーラナンダ師✨

チダナンダ師とご一緒に来日された時、車に一緒に乗ったことがありました。私を手招きして「ここに座りなさい。」と、隣に座らせてくださいました。車に乗ると直ぐに、マハームリティユンジャヤ・マントラを唱えられました。渋滞にはまると、キールタン会が始まり、盛り上がりました。いつも身近にマントラやキールタンがあることを、体験できました。お母さんのように温かく優しいエネルギーで、今でも思い出すとほっこりとした気持ちになります。

✨ヨーガスワルパナンダ師✨

「夫がヨガをすることを理解してくれません。」と、相談したことがありました。私の嘆きを聞き終えた後、「私には旦那さんが、神様の子供としか思えないんだよ。」と、静かに困ったお顔で仰ったのです。そして、深く染み渡るように祈ってくださいました。自分のエゴのメガネで見ていた私は恥ずかしくなりました。

✨カティケヤン師✨

ある晩のサットサンガで、まだ夫を悪者扱いしていた私は、カティケヤン師にも不満をぶちまけてしまいました。すると、ものすごい剣幕で「母親としてやるべきことをせずに、ここに来ているお前が悪い！GO HOME! CHIKAKO。今すぐ家に帰りなさい！」と一喝されたのです。雷に打たれた様な強い衝撃でした。

覚悟を決める

その衝撃で私は、ハッと気づき覚悟を決めました。逃げ出したいともがいていた私は、アルジュナのようにやっと自分の弱さと戦う決心をしたのです。
それからは目の前のことを、「私は今、カルマヨガをしているのだ。」と意識して行いました。
少しずつ夫婦仲も良くなり、もう一度子育てがしたいと思った頃に授かったのが次女。１２年ぶりの赤ちゃんに、夫も私もメロメロになり、夢中で子育てをしました。「さあちゃんはね、ママが元気になるように生まれてきたんだよ。」と、娘が3歳の頃、言った時は嬉しくて涙が出ました。

病気からのメッセージ

「もうそろそろ、家族の関係は大丈夫なんじゃない？」と、マキ先生に言われてもグズグズしていた頃に、私の身体に子宮体癌が見つかりました。そして、入院中にまさに臨死体験をしました。肉体から抜け出た私が、光の世

界に溶け込み、至福そのものになりました。ところが丸い天井がいきなり現れて、更に上には登れなくなり、ドスンとベッドに落とされました。この世界に戻された私は「えっ、戻ってきちゃった。やだぁ、まだ続くの、、、」と困惑しましたが、この世に戻されたのだから残りのカルマを消化しようと思い直しました。
ところが、あの光の世界にずっと居続けたかった、あの世界に戻りたいという気持ちが度々湧き上がり、この世にいることが虚しくもありました。そして、瞑想があの時の至福に包まれた光の世界に私を繋げてくれる気がして、私は毎日瞑想を続けました。
ある時、私は光の世界は外側にあるのではなく、自分の内側のハートにあることに気がつきました。悦びが込み上げてきました。すると、瞑想をすることが義務ではなく、楽しみに変わりました。私達は光の世界から来て、やがてその世界へ戻ります。魂の故郷を忘れないために、瞑想をするのだと思いました。こんな貴重な体験ができ、今では病気にも感謝しています。そして、人生の残り時間を大切に生きることを意識するようになりました。
本当にやりたいことをしよう！！もう一度、ヨガに戻ろう！

そうだ！インドに行こう

「カティケヤン師は92歳よ。この世で生きておられるうちにお会いしないと、あなたが後悔しないかしら？」、マキ先生からのひと言で、2024年のアシュラムツアー参加を決心しました。ためらいながら夫に「インドに行こうと思うの。」と伝えると、「うん、わかった、気を付けていってきてね。」と返ってきました。あまりにも快諾してくれたことに私は驚いてしまいましたが、受け入れてもらえたと、安堵しました。癌の治療中、必ず病院に付き添ってきてくれた夫…感謝しています。ありがとう。

28年ぶりのアシュラム

「あー！帰ってこれた、ここに。」28年ぶりのアシュラムは故郷に帰ってきたかのようで、嬉しかったです。与えられた部屋に入った瞬間にグルデブの写真と目が合いました。そこから「委ねなさい。」とメッセージを頂き、肩の力が抜けた気がしました。
そして、26年ぶりにカティケヤン師にお会いしました。
スワミジは、あの出来事を忘れたと仰いましたが、家族の写真に祝福をしてくださいました。私の中にずっとあった何かが解けた瞬間でした。

しみじみとした悦び、カティケヤン師との再会

最後に

チダナンダジ師の本にもあるように、登山では同じ頂上を目指すのに、数ある登り方から自分に合った登山道を選ばないと頂上には到達できません。信頼できるガイドさんや周囲の理解やサポートも必要です。
精神世界も同様です。精神世界の学びには必ずグルが必要ですが、その中間にいて身近なことを相談できるマキ先生のような存在が大切です。
なぜなら、私達は精神世界を自分勝手に解釈して、道を誤る危険性が多々あるからです。私は世俗が悪だと言い訳をして社会から逃避している人達を大勢見てきました。今、思えば、身近な家族とさえ良好な関係を築けない人が、グルとの良い関係を築けるとは思えません。
世俗まみれだと夫を見下していた頃、夫の履いていた靴を見て、気づいたことがあります。営業で歩き回っている夫の靴は、とてもくたびれていました。家族のために働くことで、バジャンに行かなくても、カルマヨガを行っていた。今の私は自分が間違っていたと思えるようになりました。
グルデブの教えは奇抜ではなくシンプルですが、だからこそ安全で、確実です。奇跡を求めるのではなく、誰もが自分の置かれた境遇で、淡々と霊性修行を行うことができます。私はそれに気づき、ここに繋がれたことに感謝し、これからも一歩一歩進んでいきたいと思っています。

近藤千夏子